

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（1）大学・学科の設置理念

①大学

甲南学園は、甲南大学、甲南高等学校・中学校を設置する学校法人である。学園の創立は1919年の旧制甲南中学校開設にさかのぼり、その創立者は平生鈆三郎である。平生は、「真の教育というものは人格の修養と健康の増進を第一義とし、これにそなえるに各人がうけたる天賦の特性を啓発指導するにあり」という教育理念を掲げた。

甲南大学はその目的を「学術の府として広くかつ深く学芸を教授研究するとともに、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現すること」（甲南大学学則第1条）としている。その実現のために、下記の能力・資質を身につけ、それらを社会生活において総合的に活用できる人材を養成することを教育目標に設定している。

- ・自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
- ・天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
- ・人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
- ・専攻分野に関して基本的な知識を修得しています。
- ・自己の意見を分かりやすく主体的に説明する能力を有しています。
- ・事象の中から問題を発見して論理的に考察し、収集した情報を整理・分析し、それらを総合して問題解決を図る意志と能力を有しています。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

自然科学研究科環境・エネルギー工学専攻

マテリアルは、我が国の科学技術・イノベーションを支える基盤技術であるとともに、リチウムイオン電池や青色発光ダイオードなど、これまで数多くのイノベーションを生み出し、世界の経済・社会を支えてきた。令和3年に閣議決定された「第6期科学技術・イノベーション計画」では、「マテリアル革新力強化戦略」に基づき、わが国が有する世界最高レベルの研究開発基盤や多様な研究者・企業存在を強みとして、産学官の共通ビジョンの下、迅速な社会実装、人材育成、持続的な発展性の確保などの取組を強力に推進することが謳われている。さらに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「2050年カーボンニュートラル」の実現や、健全で効率的な廃棄物処理および資源の高度な循環利用による循環経済を促して、グリーン産業の発展を通じた経済成長へとつなげることが、我が国の喫緊の課題とされている。

このような経済と環境の好循環の創出やグリーン社会の実現ためには、革新的なイノベーションをもたらすマテリアルが不可欠であり、「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」において示された多くの重点的成長分野で、マテリアルの革新を担う人材が広く求められている。このような需要の高まりに対して、大学院での高度高等教育には、基礎研究や学理構築に向けた期待とともに、カーボンニュートラル社会の実現に資する大学院修士課程および博士課程の魅力向上やそ野の広い教育環境の提供などを通じた優れた人材の育成が求められている。

以上のような社会的要請および教育・研究における要請に応えるため、甲南大学大学院自然科学研究科では、マテリアル系の専門性を持ち、環境・エネルギー工学に関する専門分野で自立して独創的研究ができる高い学識及び技術を修得し、国際的に活躍できる高度専門職業人ならびに研究者を育成することを目標とする「環境・エネルギー工学専攻（修士課程、博士後期課程）」を設置する。

なお、環境・エネルギー工学専攻（博士後期課程）は、環境・エネルギー工学専攻（修士課程）2年を基礎課程とし、標準修学年数を3年とする課程である。修士課程では国際的に活躍できる高度専門職業人の育成を目標とし、博士課程では高度専門職業人および研究者の養成を目標とする。

また、本専攻のディプロマ・ポリシーは以下の通り定める。

DP1【専門力】

自然科学の幅広い知識と環境・エネルギー分野における専門的な知識を有し、高度専門職業人または自立した研究者として必要な能力を有しています。

DP2【融合力】

独創性豊かで優れた研究・開発能力を有しています。

DP3【展開力】

専門的な業務に従事するために必要な能力を有し、高い倫理観を備えています。

(2) 教員養成の目標・計画

①大学

建学の理念・目的に基づき、以下のような教員像を具現すべく教員養成を行う。

【幅広い教養と深い専門性を追求する能力を有する教員】

本学は、旧制高等学校以来の伝統を有する、文理系8学部及び4研究科からなる総合大学である。その広範囲な専門領域を土台に、幅広い教養を身につけるとともに、各学部・学科における高度な教育を通じて、深い専門性を追求しつづける教員を養成する。人文科学、社会科学、自然科学のいずれの分野においても、そこで得られる知識・技能は、「健全なる常識」を備えた人間が駆使するものでなければならない。

【専門職として「教え育てる」能力を有する教員】

学習面や生活面における生徒のつまずきをいち早く察知し、あるべき方向に教え導く能力を有する教員を養成する。教員は、自身の「できなかったことができるようになった」ときの喜びを忘れることなく、常に生徒と共に歩み、彼らの成長を促す指導力を身につけねばならない。

【生徒の個性を伸ばさせる態度・姿勢を有する教員】

生徒の個性を引き出し、伸ばさせるために、生徒の人権を尊重し、一人ひとりの生徒に寄り添い、しっかり向き合うことができる教員を養成する。このことを可能とするのは、教員自身の人間的魅力、他者を思いやる気持ち、教員と生徒との間での信頼関係である。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

自然科学研究科環境・エネルギー工学専攻

本専攻では、環境・エネルギー工学分野における幅広い視野を養う「基礎科目」、専門的知識を深める「専門科目」及び自立した技術者や研究者に求められる能力や技法を修得する「共通科目」を設置する。これにより、化学・物理学・地学の基礎知識に加え、環境・エネルギー工学に関する専門知識を教授する。また、実験・実習（修士研究）を通じて、課題解決能力につけるとともに、社会で活躍するための総合力を養成する。

そこで、本専攻では、中学校教諭専修免許状（理科）および高等学校教諭専修免許状（理科）を授与しうる教育課程を設置する。この課程は、2026年4月設置予定の理工学部環境・エネルギー工学科における教員養成の理念を土台とし、大学院修士課程における化学を中心とした高度な専門知識の習得、ならびに、これらの分野の先端的な化学研究の推進を通じて、甲南大学の教員養成理念に基づく個性豊かで、徳・体・知のバランスのとれた、高度な専門知識と先端的な研究経験を有する人間的魅力あふれた理科教員を養成することを基本としている。本課程において自然科学の先端研究を自ら進める経験を積むことにより、中学生や高校生に対して高度な専門知識と研究経験に基づいた深みある確かな自然科学教育を実践できる、専修免許にふさわしい理科教員が養成されるものと考えられる。より、中学生や高校生に対して高度な専門知識と研究経験に基づいた深みある確かな自然科学教育を実践できる、専修免許にふさわしい理科教員が養成されるものと考えられる。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

自然科学研究科環境・エネルギー工学専攻

[中学校教諭専修免許状（理科）]

本専攻は、建学の理念のもとに、現代社会が抱える種々の課題の中でも、環境・資源・エネルギーに係わる課題に取り組むうえで必要な専門知識を基礎的な学理と応用の面から教授し、これらを運用する技術を培い、高い倫理観を涵養する。

大学院修士課程においては、独創性豊かで優れた研究・開発能力を持つ、環境・エネルギー工学に関する専門的な業務に従事するために必要な能力を持つ高度専門職業人を育成することを目標とする。そのため、化学・物理学・地学を中心とした基礎知識、ならびに環境・エネルギー工学に関する専門知識を教授するとともに、問題解決能力を学生に修得させ、社会で活躍するための総合力を実験、実習を通して養成する。

このような学修を通して、専門的な業務に従事するために必要な能力、独創性豊かで優れた研究・開発能力ならびに高い倫理観を備えた人材を社会に輩出することを目指している。

これらの能力は、学習指導要領に記載の教科の目標である「(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。」、「(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。」、「(3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。」に通じるものであることから、本専攻での学びを中学校理科教育に活かすべく、中学校教諭専修免許状（理科）の教職課程を設置する。

[高等学校教諭専修免許状（理科）]

本専攻は、建学の理念のもとに、現代社会が抱える種々の課題の中でも、環境・資源・エネルギーに係わる課題に取り組むうえで必要な専門知識を基礎的な学理と応用の面から教授し、これらを運用する技術を培い、高い倫理観を涵養する。

大学院修士課程においては、独創性豊かで優れた研究・開発能力を持つ、環境・エネルギー工学に関する専門的な業務に従事するために必要な能力を持つ高度専門職業人を育成することを目標とする。

このような学修を通して、化学・物理学・地学を中心とした高度な知識、専門的な業務に従事するために必要な能力、独創性豊かで優れた研究・開発能力ならびに高い倫理観を備えた人材を社会に輩出することを目指している。

これらの能力は、学習指導要領に記載の教科の目標である「(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。」、「(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。」、「(3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。」に通じるものであることから、本専攻での学びを高等学校理科教育に活かすべく、高等学校教諭専修免許状（理科）の教職課程を設置する。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

①

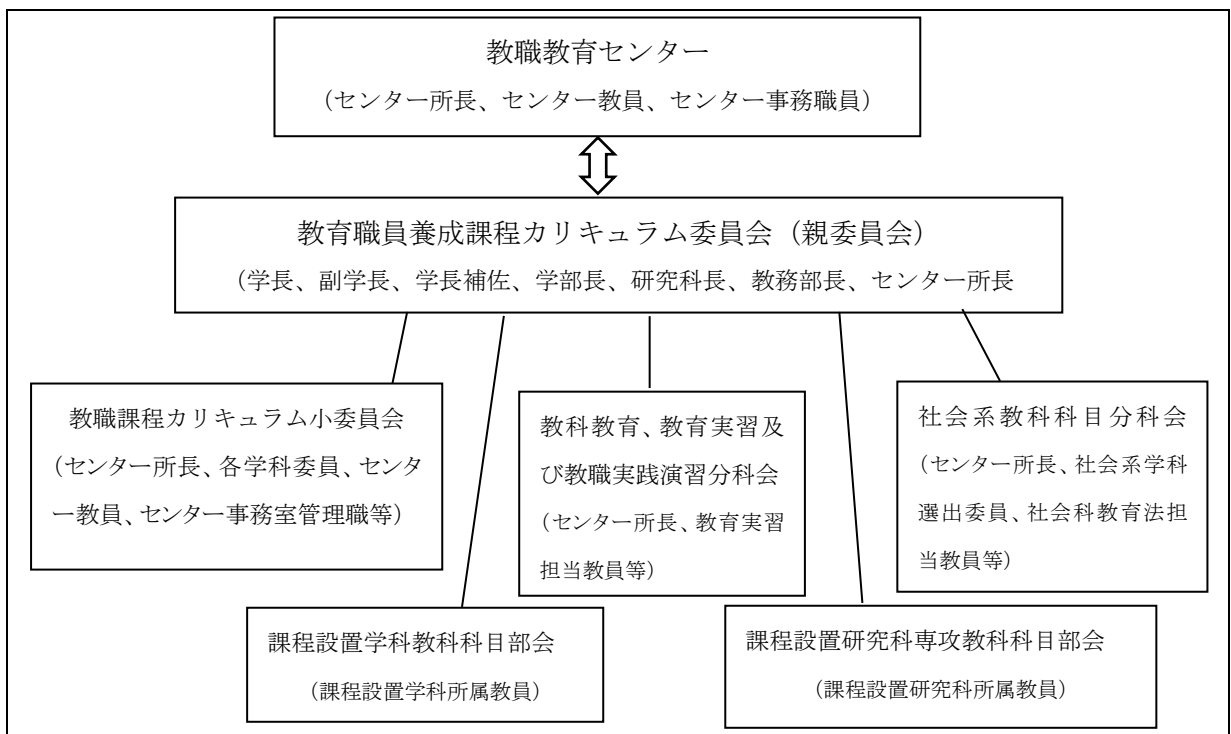
組織名称：	教職教育センター
目的：	本大学の教育目的に従い、教員養成に関する教育と研究を推進するとともに、本大学における教員養成に関する課程を円滑に運営し、教員を志望する本大学学生及び卒業生の教育領域への進出を支援することを目的とする。
責任者：	教職教育センター所長
構成員(役職・人数)：	教職教育センター所長、教職教育センター専任教員(4)、センター事務職員(4)
運営方法：	隔週月曜日に「教職教育センタースタッフ会議」を開催し、教職教育センターの運営について、審議、報告を行っている。 <p>教職課程の運営(①教職に関する専門教育科目の開講と教職課程の全学的調整、②教職課程履修ガイダンス実施や教職課程登録、教員免許状申請手続き、③教育実習・介護等体験の実施、④小学校教諭一種免許状取得プログラム(神戸親和大学通信教育部との提携)、⑤文部科学省への諸手続き(課程認定申請や変更届))や、教員採用支援(①教職指導員による教職指導・教職相談、免許教科別指導体制、②教員採用試験対策講座の実施、③教員採用情報の提供、教育委員会による採用説明会実施、④学校ボランティア・インターンシップ等の推進、⑤卒業生教職員の集い、⑥卒業生教員訪問事業、⑦卒業生教員による講演会、⑧ICT教育推進)等を実施し、本学の教職課程運営の中心的な役割を担う。</p>

②

組織名称：	教育職員養成課程カリキュラム委員会
目的：	教育職員養成課程カリキュラム委員会は、主として教職課程カリキュラムに関する全学的な審議を行う。学長始め、教職課程を設置する各学部長・研究科長等を構成員とする親委員会のもとに、教職課程に関する個別の事項を検討するため、教職課程を設置する各学科選出委員とセンター教員等で構成された小委員会や分科会・部会を設け、教職課程の運営・充実・改善に関して実質的な検討を行っている。
責任者：	学長
構成員(役職・人数)：	<ul style="list-style-type: none"> ・教育職員養成課程カリキュラム委員会(親委員会)： 学長(1)、副学長(3)、学長補佐(3)、教職課程を設置する各学部の学部長(6)、教職課程を設置する各研究科の研究科長(4)、教務部長(1)、教職教育センター所長(1)、教職専門科目担当のうち学長の推薦する専任教員(若干名) ・教職課程カリキュラム小委員会： 教職教育センター所長(1)、センター教員(4)、教職専門科目担当教員のうちから所長が推薦する教員(若干名)、教職課程を設置する各学科から選出された専任教員各1名(13)、センター事務室管理職(1) ・教科教育、教育実習及び教職実践演習分科会： 教職教育センター所長(1)、教科教育法、教育実習及び教職実践演習を担当する教員(非常勤講師を除く。)(8~9) ・社会系教科科目分科会：

<p>教職教育センター所長 (1)、社会、地理歴史又は公民の課程を設置する学科から選出された専任教員 (6)、社会科教育法担当教員 (非常勤講師を除く。)(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課程設置学科教科科目部会：課程設置学科に所属する教員 ・ 課程設置研究科専攻教科科目部会：課程設置研究科に所属する教員
<p>運営方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育職員養成課程カリキュラム委員会 (親委員会) は、次に掲げる事項を審議する (年1回程度の開催)。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 甲南大学の教員養成理念に則した教職課程の編成に関する事項 (2) 教職課程のカリキュラムの企画・運営・評価に関する事項 (3) 教職課程授業科目の充実及び改善に関する事項 (4) 教職課程授業科目間の調整に関する事項 (5) その他教員養成に関する事項 ・ 小委員会、分科会及び部会は、次に掲げる事項を任務とし、必要な都度開催する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教職課程カリキュラム小委員会は、教職課程全般の運営・充実・改善に関する事項について検討する。 (2) 教科教育、教育実習及び教職実践演習分科会は、教職専門科目のうち、教科教育法、教育実習及び教職実践演習の運営・充実・改善に関する事項について検討する。 (3) 社会系教科科目分科会は、教科専門科目のうち社会系教科科目の充実・改善に関する事項について検討し、学科間の調整を行う。 (4) 課程設置学科教科科目部会は、各学科における教科専門科目の内容の充実・改善に関する事項を検討する。 (5) 課程設置研究科専攻教科科目部会は、各専攻における教科専門科目の内容の充実・改善に関する事項を検討する。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



様式第7号イ

Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

教育委員会・学校との連携について、以下のような取り組みを行っている。

- ・神戸市教育委員会と連携し、神戸市東灘区本山地区（大学所在地）の小中学校7校との連携。
- ・教職実践演習において、神戸市立本山中学校、本山南中学校と連携。学校訪問を実施。
- ・神戸市立須磨翔風高等学校との連携。
- ・兵庫県教育委員会主催の県立学校中堅教諭等資質向上研修の講座の一部の開講。（講師は教職教育センター教員。）

その他、センター教員が兵庫県内（神戸市も含む）の県立学校や中学校の学校評議員等を務めて、学校運営や学校の教育活動などについて、助言を行っている。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称：	学校ボランティア活動
連携先との連携方法：	神戸市、芦屋市、宝塚市、明石市、伊丹市、京都市などと協定を結び、それぞれの自治体を実施している学校ボランティア制度を活用して、学生を派遣している。
具体的な内容：	<p>2年次の教職課程登録以降、神戸市の学生スクールサポーター制度を始め、各自治体を実施する、学校ボランティア活動（教員のサポートや児童・生徒の学習支援等）への参加を積極的に推奨している。</p> <p>特に、神戸市教育委員会との連携により、大学の所在地である神戸市東灘区本山地区（小学校5校、中学校2校）に、2年次後期から3年次前期にかけて、継続的に学生を派遣している。</p> <p>教職教育センターでは、学校ボランティア活動を開始するにあたっての事前面接や学校ボランティア活動報告会などを実施し、活動をサポートしている。</p>

Ⅲ. 教職指導の状況

本学では、教員免許状取得希望の学生を支援するために全学的組織として教職教育センターを設置している。同センターは、所長・センター専任教員4名・事務室職員4名で構成され、教職課程の設置主体である各学部・学科と連携して、学生の履修指導、教職科目に関する相談等の業務を行っている。教職課程ガイダンスとしては、新入生対象の教職課程ガイダンス、2年次生対象の教職課程履修者登録ガイダンス、3年次生対象の教育実習予備登録説明会、4年次生対象の教育実習本登録説明会と、各学年の始めにガイダンスを実施し、丁寧な履修指導等を行っている。ガイダンスにおいては、履修カルテの自己申告書を記入させる時間を設け、各自の教育実習要件科目や免許状取得に必要な単位の履修状況を認識させるようにしている。

また、校長経験者等の9名の教職指導員が曜日を決めて教職教育センター共同研究・実習室（KTL）に常駐し、各教科指導・小学校連携協定課程の指導・論文指導・生徒指導・学級経営等の指導や教職全般についての相談業務を行っている。さらに、2・3年次生に対しては年4回の免許教科別指導で基礎的な知識・技能を底上げするとともに、3年次2月から4年次の8月にかけて、教員採用試験対策として、「願書・エントリーシート講座」「面接対策基礎講座」「小論文対策講座」「教員採用試験対策講座（1次試験対策・2次試験対策）」等の各種講座を実施し、教員採用試験合格を目指す学生に対して、全学をあげてサポートしている。